

保育施設周辺の音環境と住民の意識に関する調査研究

片岡, 寛子

<https://hdl.handle.net/2324/4784628>

出版情報 : Kyushu University, 2021, 博士 (芸術工学), 課程博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (3)

氏名	片岡 寛子			
論文名	保育施設周辺の音環境と住民の意識に関する調査研究			
論文調査委員	主査	九州大学	准教授	高田 正幸
	副査	九州大学	教授	尾本 章
	副査	九州大学	准教授	山内 勝也

論文審査の結果の要旨

保育施設が不足している現状を改善するために施設の 신설が求められているが、建設予定地周辺の住民の反対により建設を断念せざるをえない事例がある。住民が保育施設の 신설に抵抗感を感じる理由の一つに音の問題がある。本論文は、保育施設から生じる音と施設周辺の音環境の実際や、音環境や保育施設に対する近隣住民の意識を明らかにすることを目的として行った一連の研究の成果をまとめたものである。

まず、福岡市と佐賀市の二つの保育施設を対象とした、保育施設で生じる音の年間を通じた測定と、施設周辺での音環境や保育施設に対する意識調査について述べられている。近隣住民の保育施設の音に対する印象と音の物理的特徴に対応は見られなかった。好感がもてる音として「幼児の声」「運動会の音」が挙げられた一方で、「幼児の声」を不快とする回答も見られた。続いて、音環境が異なる地域間で住民の保育施設への意識に違いがあるか検討するために実施された、福岡市内4地域での音環境と保育施設新設に対する意識調査について述べられている。これらの地域は、保育施設の有無、幹線道路や鉄道など音を発生する施設の有無というように、音環境の条件が異なる。全体として、A特性時間平均サウンドレベル (L_{Aeq}) が高い地域ほど音環境の満足度が低くなる傾向が見られた。また、保育施設新設への賛否は、保育施設の有無や音環境の状態にはよらないことが分かった。保育施設新設への賛否の回答から、施設で実施される公開行事への参加意思がある回答者は新設に肯定的であり、また、騒音に対する感受性が高い回答者ほど否定的であることが分かった。さらに、保育施設新設への意見と回答者の社会経済的な背景の関係を検討するため、地価公示額を指標に福岡市内の2地域を選定し、同様の調査を行った。先に行った4地域での調査のデータと併せて分析したところ、 L_{Aeq} と音環境の満足度に関する前述と同様の関係が確認された。また他の地域と同様に、保育施設新設に否定的な回答は1割未満と少なかった。保育施設新設への賛否と公開行事への参加意思および騒音感受性との関係は、先行調査と同様であった。全6地域の調査データを用いた包括的な分析から、保育施設の音が聞こえるか否かは音環境の満足度と関係しないことが示された。保育施設新設への賛否に関係する要因をロジスティック回帰分析により検討したところ、「性別」「騒音感受性」「公開行事への参加意思」の各変数が統計的に有意と認められ、女性、騒音感受性が高い住民、公開行事への参加意思がない住民は保育施設の 신설に否定的であることが示唆された。

以上の結果を踏まえ、保育施設の 신설時には、公開行事を含めた施設の運営方針について住民に十分説明するとともに、住民が関心を持つような公開行事を企画し、周知することで、地域住民の理解が得られやすくなる可能性が指摘された。音への感受性が高い住民が近隣に居住していることも想定されることから、音への配慮の重要性も強調されている。本論文の知見は、保育施設の 신설を検討する際に有用と思われるが、既設の保育施設で起きている音の問題に対処する際

も参考になると考えられる。

最終試験では、2名の副査とその他一般参加者から質問やコメントがあり、申請者から見解が述べられた。調査に影響するバイアスの問題、保育施設新設への賛否に影響する非音響的な要因、保育施設新設への賛否の意見と回答者の性別の関係の解釈など、いくつかの課題が明らかになったが、論文全体としては、保育施設新設の促進、延いては子どもの健全な成長や女性の社会進出に繋がる有益な知見を提供するものと考えられた。以上を踏まえ、論文調査委員会として、本論文は博士（芸術工学）の学位に値すると判断した。